

農政時流

宮城県農業会議 会長 森谷 尚生 書

第2号/平成16年1月1日発行

宮城県農業会議

仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL/022-275-9164

E-MAIL/04miyagi@nca.or.jp

< 主な内容 >



- 2 全国農委会長代表者集会開催
- 3 主張「加美のまちから」
- 4 市町村合併と農業委員会

- 5 米山町・「忍者委員」による
農地集積活動
- 6 決算時の留意点
- 7 農業者年金のページ



“幸せ かるがも家族”

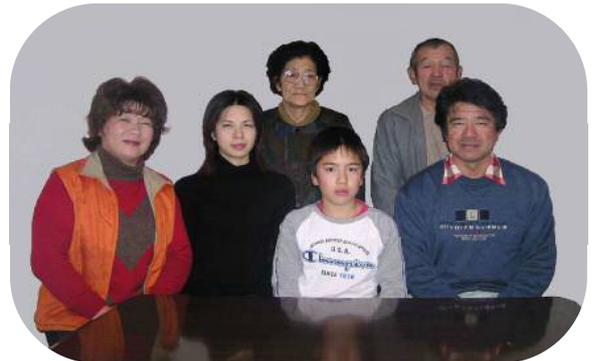
桃生町：有限会社 アグリサービス高勝

代表取締役 ^{たか}高 ^{はし}橋 ^{かつ}勝 ^お雄 さん（52歳）

取締役 ^{ちよ}千代恵 ^えさん（48歳）

☆ファミリー紹介☆

めぐみ（長女）	利喜雄（父）
一（長男）	もと子（母）
正 信（次男）	
尚 文（三男）	



< 経営概要 >

水稲：15ha，作業受託：田植 10ha，収穫・乾燥 18ha
転作：大豆 23ha，大麦 13ha

いつも二人で一緒に仕事をしていきたいという願いから、農業を選び、27年前、隣の家から嫁いだと思いを語る妻・千代恵さん。

今は、『晴耕雨読から晴耕雨湯（温泉）』と語る夫・勝雄さん。

おしどり夫婦は、5人（2女3男）の子宝に恵まれ、少子化の今日、思わず「すごいですね！」と口にしてしまいました。

将来を見据えて、平成5年に農業法人を設立、口コミで農地集積が進み、「信頼関係が何よりです。」と語る。

会社PRの新聞折り込みチラシを作ったとき、5番目・尚文くんが生まれたので、名前の一字を使った、「ぼくは“げんき米”の『ナオ君』」を配布したことから、町内の人に出会うと「この子がナオ君ですか？」とよく聞かれました、と笑いながら話す千代恵さん。

子供5人のうち次女は隣町の農家へ嫁ぎ、長男は大学2年生、ナオ君は10歳を迎えました。

子供たちは、小さい頃から親の姿を見て育っていて、農作業もにぎやか。春になると何時種を蒔くのか聞かれるので、子供たちに合わせて農作業の日程をたてているのだそうです。

また、昨年の冷害は、これまでも常時従事者が2人（夫婦）ということもあって、労働配分の関係から「ひとめぼれ」を中心とした品種構成（6品種）や作期の分散を図っていて、減収はしたものの何とか乗り越えたということでした。

「米づくりが好き。好きなものを職業として夢を追いかけ、家族みんなで収穫の喜びを味わえる。これほどの幸せはない」と勝雄さんは語る。

常にプラス思考で、地域にしっかりと根ざした“かるがも家族”です。

（小松 和明）

新年を迎えて

宮城県農業会議 会長 森 谷 尚 生



あけまして、おめでとうございます。皆様には益々ご清栄にて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中は本会の運営に特段のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて昨年は、相次ぐ地震災害や冷害などで農家経営、地域経済は大きな打撃を被りました。

今年は景気も回復し、明るさが戻ることを願っていますが、多くの課題が持ち越されました。

WTO農業交渉は先送り、FTA交渉もメキシコからASEAN諸国へと広がろうとしており、その経過に注目していかなければなりません。

一方、最大課題である米政策改革の実質元年であり、意欲ある担い手を確保して販売戦略に基づく水田農業が展開できる地域農業再生が迫られています。併せて、食の安全確保や食農教育・地産地消を進めることは、消費者が農業への理解を深め、生産者の自信にもつながるものと考えます。

また、系統組織の改革では、農業委員会の必置規制と交付金の堅持を確保するとともに、市町村合併や地方分権が進む中で農業委員会の役割を果たせる対応が必要です。

これら社会変化を冷静に捉えながら皆様方とこれまで以上に目に見える活動をして参りたいと存じますので、本年もよろしくお願い申し上げます。

平成15年度全国農業委員会会長代表者集会開催される

12月4日、東京都/九段会館において約1,300名〔本県からは古川・築館管内を中心に34名〕が参加し、全国農業委員会会長代表者集会が開催された。



第1部では、「私たちは農業委員会活動の改革に取り組んだ」のテーマで、①食農教育と農地の有効利用とを一体化した取り組み/学校給

食残飯0運動〔岐阜県東白川村〕、②遊休農地を活用して市民農園づくりを推進/小委員会設置、ボランティア活動〔岩手県紫波町〕、③農地利用集積に向けた地域に密着した農業委員会活動/3C（行動計画）・7（行動目標）運動〔栃木県岩舟町〕の事例が報告された。いずれも財政事情の厳しい中であって、町村における課題を整理し、「何ができるのか」、「何が求められているのか」と真剣に議論を重ね、目標⇒行動⇒検証を行いながら取り組んでいる「利益代表機能」に相応しい、評価される内容であった。

第2部は、①農業構造改革の加速化と必要な予算の確保等に関する重点要請決議、②WTO農業交渉並びにFTA交渉に関する要請決議、③農業委員会制度改正に関する特別要請決議等を満場一致で採択し、閉会した。

第2部では一部に空席が目立ちはじめ、組織制度の改革が目の前に迫り、交付金削減等、厳しい

環境の中での開催だけに、問題意識の欠如とも受け止められ、残念であった。

当日午前中は代表者集会に先駆けて、県選出国會議員〔衆・参16名〕に対し、第47回県農業委員大会と平成15年度会長代表者集会決議事項について、個別に役員と地方農業委員会連合会長が要請活動を実施した。

代表者集会終了後に行われた代表要請活動は、役員等6名が参加した。本県は北海道等とともに農林水産省班で、金田英行副大臣〔衆：北海道/比例〕、市川一朗副大臣〔参：宮城〕に要請した。両副大臣とも内容は充分承知しており、引き続き頑張っていきたいとの回答であった。

特に、市川副大臣からは、「現在の政策決定が『経済財政諮問会議』でなされている。構造改革についても、唱えるだけでなく、諮問会議側



＝タックス・ペイヤー〔納税者〕の目に見えるものにしていかなければならない。それは農業全般にも、農業委員会制度にも言えることである。短期的な防御策を講じて、一時回避するだけでは問題の先送りにしかならず、長期的な防御体制の構築を急ぐ必要があり、われわれも努力するが、当事者として頑張ってもらいたい」との感想が述べられた。

（栗野 一男）

《おめでとうございます》

秋の叙勲、宮城県知事表彰、
農林水産大臣表彰の受賞者

本県農業会議関係者で、このたび叙勲・表彰されたのは、次の方々です。

① 秋の叙勲

旭日双光章

旭日単光章



早坂政司氏
前古川市農業委員会会長
元農業会議常任会議員



阿部次男氏
宮城県農業会議副会長
松島町農業委員会会長

瑞宝単光章



永谷信雄氏
亙理町農業委員会会長
元農業会議常任会議員

② 宮城県知事表彰（産業功労賞）



森谷尚生氏
宮城県農業会議会長
古川市農業委員会会長



佐藤時雄氏
大河原町農業委員会会長



佐藤義衛氏
元築館町農業委員会会長



菅野清蔵氏
名取市農業委員

③ 農林水産大臣表彰



石川秋男氏
志波姫町農業委員会会長
農業会議常任会議員



～主張～

加美のまちから

農家レストラン
「ふみえはらはん」

しづ や ふみ え
洪 谷 文 枝



「わあ、ヨーロッパの小径みたい。素敵!!」

若い女性達が、畦道を見ながら歓声をあげている。「こんな道をゆっくり散歩して、風に吹かれながらお茶を飲めたら最高ね」と、普通の農道なのに。以来私は、その舗装されていない農道を「ヨーロッパの小径」と呼ぶようになった。

私にしてみれば見慣れた古い家・田畑の風景等が、『最高』という言葉に飾られる。「こんな地域に住めて幸せね」と言われると、そうか私は幸せだったんだと、農村に沈んで視点が低くなっている自分に気がつく。

私が農家レストランを始めてから、もう8年が過ぎた。地元の食材で昔から伝わる地元食を地域の友達とのお茶飲み場として始めたことが、口コミで広がり、今では、お客様として年間2,500人程が来てくださるようになった。

めずらしさ半分、健康や安心を求めての方が半分で、お客様との会話では、食事・環境等々考えもしなかった話題となって広がっていく。

そんな中で見つけたのは、自分で行動を起こすと視野が広がり、感覚が違ってくること、うす暗い風景も光を浴びると鮮やかに変わるように。

農村は、生産の場だけではない。観光の地、あるいは舞台ととらえたら視点が大きく変わる。

手入れされない減反、草の刈られていない農道、小動物の姿のない光景等を見て、誰が住んでみたいと思うだろうか。

これからは、近視眼的に見るのではなく、ちょっと遠くから、都市部に住む第三者の眼も借りながら農業を続けられる環境をつくっていったらと思う。

農業委員会・農業委員さんの仕事は、農家の人達にどれほど理解されているのだろうか。農業・農村の良さを活かすスローフードや地産地消、食農教育などにも目を向けて、もう少し地域に密着し、地域から頼られる農業委員であって欲しいと願っている。

市町村合併と農業委員会

本県では現在、登米や大崎、石巻など10地域、48市町村が平成17年の合併に向け、法定合併協議会で協議を重ねています。

合併すれば農業委員会もこれまでの委員会は廃止され、新しい市町村に改めて設置されることとなりますが、区域も広くなり、委員数も大幅に削減されることから、委員会活動に様々な問題が生じることが予想されます。

農業委員会に関する事項など新たな市町村の基本は、関係市町村長、議長などを主要構成員とする協議会で決定されます。農業委員会として最も大切なことは、この協議会に農業委員会の代表が参加するか、または協議会に農業委員会の意見が最大限尊重される仕組みを予め構築しておくことです。

これから合併を進める上で参考となる基本的な事項を紹介します。

1 農業委員会の合併方式

農業委員会の合併方式には、合併前の委員の任期を最長1年間延長することができる「合併特例法第8条」適用の場合と、新たな委員会が設立するまで従前の委員会と委員がそのまま存続する「農業委員会法第34条」を適用する場合があります。

加美町では特例法により本年3月まで、古川市など1市6町と登米郡など9町の合併では農業委員会法を適用し、来年の統一選挙まで、現在の委員がそのまま存続することとなっています。

2 農業委員会数

農業委員会は1市町村1委員会が原則です。ただし、農地面積が7,000ha以上など著しく大きい場合は、例外的に2つ以上の委員会が設置できます。

1万haを大きく超える古川市などの合併では、平成20年まで2つの農業委員会の設置が、登米の合併では1つとすることが協議会で決まっています。

3 農業委員定数

選挙委員の定数は、10人以上40人までと定められています。ただし、上限40人は、農地面積5,000ha以上などが条件です。しかしこの上限定数は、今回の大規模合併を想定していなかったことから、特例として見直すよう国に要望しているところです。

市町村合併が行財政改革を主要な目的の一つにしていることから、委員定数は、可能な限り絞り込む必要はありますが、委員会業務に支障をきたさない定数の確保が重要です。併せて、新たな協力員制度などについても検討することが必要です。

4 その他

部会制、選挙区制などについても、農業委員会の役割や位置づけを考慮し、将来に禍根を残さないよう対応することが肝要です。

(佐藤 雄一)

かけはし

気仙沼市農業委員

佐藤 美千夫 さん



☆経営内容

○個人

水稲 2.5ha

(うち借入 1.5ha)

○組合

水稲 10ha, 作業受託 10ha

(はじかみ生産組合)

転作大豆 20ha, エダマメ 2.5ha

(階上生産組合)

☆就任回数：現在4期目(選挙)

☆地域活動：階上生産組合長

はじかみ生産組合長

地域を活性化するため、資金を借りても、経営規模を拡大し、施設を充実させていきます。

農業は、季節を通して喜びを実感できる良さがあり、私は、安全な食を消費者に届けていることに誇りを持っています。地元の子供たちへの食農教育にも力を入れています。

何事も前向きに物事をとらえて、「今やらなくてはだめだ」という気持ちを常に持ち続けることが私の信条。農業委員として、できるだけ多くの汗を流して、精一杯取り組んでいきます。

全国農業新聞

全農業委員1人・1年・1部拡大運動を推進しよう!!



「忍者委員」による農地の集積活動

米山町農業委員会

米山町農業委員会（秋山耕会長）は、「担い手への農地集積と効率的利用」を地域農業再生運動として進めています。

米山町では、昭和46年以来ほ場整備を進め、水田のほぼ100%が整備されています。整備当初は、比較的米価が高かったこともあって、農地集積への関心は低い状況でした。

現在町内では、認定農業者などで構成される36の農業生産組合等を中心として、作業受託による農地の利用集積が進められています。しかし、受託したほ場が分散しているため、これ以上の受委託が困難になってきています。

このため、平成14年度から町・農業委員会・県農業公社の三者が、地域の合意の下に認定農業者など集積対象者を特定し、担い手への集積率を5年後に50%にすることを目指しています。

昨年度実施した4地区では事業実施前の集積率30%が34%になりました。今年度は、現在集積率20%の猪込地区など3地区を対象地区に加えてい

ます。

対象となった地区の農業委員は、集落説明会の段取りや農地の貸し手・借り手の掘り起こしを担う「担い手集積活動員」として積極的に活動しています。どうしても活動が夜間になるため、農家からは、別名「忍者委員」と言われています。

集落説明会では、「自分の農地がどうなるか？」等の自己中心の意見が多かったようですが、最近では「集落をどうする？」「農地をどうする？」「担い手をどうする？」等の積極的な意見も出始め、農業者の意識にも変化が見られてきています。

秋山会長は「厳しい時代だからこそ、担い手が育つ集落の環境づくりと農地の効率的利用を進める必要があるのではないのでしょうか」と話しています。

悩みは、「平成17年3月の広域合併によって、現在取り組んでいる地域に密着した活動を今後とも継続できるかどうか」だそうです。

（佐藤 雄一）

いきいきファーマー

「地域とともに生きる農業法人」

大河原町：株式会社 ヒルズ

代表取締役 佐藤 希志男 さん（57歳）

専務取締役 時 子 さん（54歳）

経営規模：母豚1,150頭、年間出荷頭数：26,000頭
経営内容：養豚一貫経営、直売所、堆肥製造販売

「ヒト、モノ、カネ」の経営の三要素に加えて、もう一つ大切なものがある、と佐藤さんは言う。それは『地域』で、今日の経営があるのも、今後の経営を維持・発展していく上でも地域との関わり合いがとても大切であるとして、常に地元に向けている。

昭和39年に就農し、5年目に母豚15頭の一貫経営をスタートさせた。

全国の養豚家と積極的に交流しながら「生業」ではなく「企業的経営」を目指して良きパートナーの時子さんと二人三脚、5年毎の母豚倍増計画を着実に達成し、昭和57年に(有)佐藤養豚場を設立



した。

平成13年の再認定時に、総合的な農場経営に向け、観光農業を取り入れた“ふれあい農場構想”を計画。(株)ヒルズに社名を変更、資本金も倍額に増資し、平成15年に「和豚もちぶた」の直売施設「もちぶた館」を開設するとともに、小動物とのふれあい広場を整備するなど、地域活性化の一翼を担っている。

また、「もちぶた館」では自社の高品質堆肥「アートパワー」を使う町内外の人たちが「ファーマーズの会」を作り新鮮野菜を一緒に販売している。

さらに、地元食材にこだわり、肉みそ「豚豚（とんとん）みそ」、「ゆずドレッシング」など地元醸造会社と共同開発・販売し、地産地消を実践している。

（小松 和明）

ワンポイント・レッスン ～決算時の留意点～

お正月が過ぎれば、皆さんもそろそろ決算の準備に取りかからなければならない頃ではないでしょうか。

ご存知のとおり、個人事業者の会計期間は、毎年1月1日から12月31日までです。そこで今回は、決算に当たっての留意点を取り上げました。

具体的な作業（棚卸等）は12月31日に行いますが、その他は確定申告（平成15年分は本年2月16日～3月15日）に間に合うように進めることとなります。下記の点にご留意のうえ、決算手続きを進めてください。

(1) 収入金額・仕入金額の整理

- ① 収入・仕入の計上漏れや計上誤りはないか
- ② 米麦など田畑からの収穫物の年末在庫高も収入に計上されているか
- ③ 預金口座への振込入金計上漏れはないか
- ④ 農産物と相殺したものは売上に計上されているか、現物収入はなかったか
- ⑤ 作業料金や農業生産組織（任意組合・共同事業等）からの収入はないか
- ⑥ リベートや助成金・補助金その他雑収入の計上漏れはないか
※ 転作関係については、一時所得と雑収入に分かれますのでご注意ください。
- ⑦ 小作料収入はないか

(2) 売掛金・買掛金残高の整理

- ① 期末売掛金残高も収入に計上されているか
- ② 期末買掛金残高も仕入に計上されているか（期首・期末の買掛金残高の除加算）

(3) 必要経費の整理

- ① 経費の計上漏れや計上誤りはないか
- ② 期末未払分も計上されているか
- ③ 資本的支出（減価償却資産）が混じっていないか
※ 通常、機械や建物を修繕した場合は修繕費として費用に計上しますが、使用可能年数が延長されたり、価値が増加した場合は、資本的支出として固定資産にその価値を加えます。定額法では取得価額に、定率法では帳簿価額にその金額を加えて減価償却費の計算を行います。
※ 地震等により建物・機械等の倒壊、破損があった方で、その修繕を行った方は税理士または税務署とご相談ください。
- ④ 減価償却費の計算に誤りはないか
※ 一般の減価償却資産を償却限度額まで償却しているか

(4) 棚 卸

品名・数量・単価・金額などを記載した棚卸表をキチンと作成保存してあるか

(5) 農産物の家事消費額、事業消費額の計算と収入への計上

農産物を家事消費あるいは事業消費した場合は、その金額を収入金額に計上しているか

(6) 家事関連費の計算と経費からの控除

家事関連分費用は適正に計算除外してあるか

※ 期中に一括して経費計上している場合、年末に家事関連分を使用割合によって按分計算し、必要経費から差し引く必要があります。

(7) 動植物の育成費用の計算と経費からの除外

育成中の動植物の評価は適正か

※ 将来固定資産となる動植物は、成熟年齢になるまでの間、毎年、育成費用を計算し、その年の必要経費合計額から差し引きます。

(8) その他

大規模生産組織に対する課税（みなし法人、消費税）が強化される傾向にありますので、構成員の方は特にご注意ください。

（高谷 忍）

ときのことば



「スローフード」

「スローフード」とは、1986年、イタリアのブラ（Bra）という小さな町からスタートしました。多忙な現代人の食生活を見直す運動で、単にファーストフードの対極の言葉としてだけでなく、

- ① 消えゆく恐れのある伝統的な食材や料理、質の良い食品、酒を守る
- ② 質の良い素材を提供する小生産者を守る
- ③ 子供たちを含め、消費者に味の教育を進めることがテーマに掲げられ、各地に残る食文化を尊重し、未来に伝えていこうという活動です。

日本では、古来より郷土食、地方の特色ある食材や日本酒などがあり、日常の中でスローフードが実践されてきました。

しかし一方で、ライフスタイルの変化や効率化の追及の中で、全国で食事や味の画一化が進んでいます。

ここで一度立ち止まって、しっかりと食生活を見直しはいかがでしょうか。

積極的な戸別訪問で加入推進を!!

新規加入状況

上半期の新規加入者は50人、全国では997人となりました。(下表参照)

新規加入者数(単位:人)(平成15年)

	4・5月	6・7月	8・9月	累計
宮城県	27	16	7	50
全国	532	280	185	997

加入者の状況

60歳に到達した者や会社勤め(厚生年金加入)による脱退等で、減少しています。(下表参照)

加入者数(単位:人)(平成15年)

	4月	9月	4月-9月の格差
宮城県	4,700	4,573	△127
全国	71,302	70,518	△784

角田市の加入推進の具体的な取り組み

角田市では、11月～3月までを「農業者年金加入推進強調月間」としています。農業委員会とJAが協力して戸別訪問を行っており、「加入には家族の理解が大切」と、家族全員に老後における年金の大切さや、農業者年金の特徴である積立方式、政策支援(保険料助成)の要件である認定農業者制度や青色申告手続き、税制メリット等を説明しています。

今年は、青色申告者・女性農業者の集会等での説明や、農業委員による戸別訪問をすることになっています。

加入したいという意識の高揚を!

昨年の不作により保険料を納める余裕がないという農家が多く、なかなか加入に結びつかず、「説明だけでも聞いてほしい」といっても、断る農家もあるそうです。

しかし、農業者年金に対する関心を農家が失わないよう、加入したいという意識を高揚するためにも、加入推進活動をさらに進めることが重要です。



農業者年金を農業者にとって必要不可欠な制度として確かなものとするには、加入者を増やすことが何よりも大切です。農業会議は、頑張っている農業委員会へ

加入推進資材の提供等の支援を行っています。

農業委員が中心となった戸別訪問を全農業委員会で進め、積極的な加入推進をお願いします。



年金相談Q&A

第三者に所有権移転して、未登記になっている農地も処分対象農地に含めるのですか?

問:私は、近々、息子へ農業経営を移譲して、経営移譲年金を受給したいと考えています。

ところが、1年3ヶ月前に第三者に売り渡した農地があるのですが、相手が単にこの農地の所有権移転登記を済ませていないため、登記簿上は現在も私名義の農地となっています。私の経営移譲に影響がありますか?

答:ご質問の内容では、1年3ヶ月前のケースで、受給手続きのための重要なポイントとなる基準日前の売買であり、しかも単に登記名義の書き換えが済んでいないだけのことから、当該農地は経営移譲に当たっての処分対象農地に含まれませんので、経営移譲には影響しません。

しかし、買った方には速やかに登記の書き換えを済ませるようにお話しください。

年金用語の解説

「基準日」とは

基準日とは、農地法3条の許可等により、経営農地を経営移譲終了した日の1年前の日をいいます。

基準日～経営移譲終了日の期間(1年間)に、農地を移動(農地売買、転用、交換、買い替え等)した場合、受給手続きは先送りされます。先送りされた結果、受給予定者の年齢が65歳を過ぎれば、経営移譲年金は受給できなくなりますので、ご注意ください。(森下 純一)



お申込みは市町村農業委員会・県農業会議まで

お知らせ

○ 第47回宮城県農業委員大会

11月17日に名取市文化会館で1,073人が出席して開催されました。東北大学／工藤昭彦教授の講演と平成16年度農業委員会等関係予算の確保等が決議されました。

○ 農業者年金加入推進セミナー

12月3日に東京都で全国の農業者年金関係者600人が参加して開催され、加入推進と“のうねん倶楽部”の組織活動強化が決議されました。

○ 平成15年「農業委員会だより」コンクール

「農業委員会だより」の部に14紙、市町村広報活用型の部に2紙の参加があり、12月16日の審査会で小牛田町と北上町が優秀賞に決定しました。3月の本会通常総会で表彰され、また全国コンクールにも出品されます。

○ 農業委員会交付金、3年間で2割縮減

農林水産省は12月9日、農業委員会・普及事業交付金を平成16年～18年度において、組織のスリム化に沿って計画的に2割程度、平成16年度は6.9%縮減すると発表しました。

農業委員会交付金は、経済財政諮問会議等で検討され、本年6月閣議決定された「骨太の方針第3弾（基本方針2003）」では組織のスリム化等に沿って縮減するとされ、また、平成16年度政府予算編成や、いわゆる「三位一体改革」で検討されていました。

本会は、全国農業会議所等と国に対し、交付金の堅持等の緊急要請を国の関係者に対して行っていたところでした。

○ 本会第67回通常総会

3月下旬に仙台市内で、平成14年度決算と平成16年度予算等を議題として開催します。



オフ・タイム



今回は、阿部次男副会長を紹介します。



「皆さんのお陰でいただいたものだから一人でもらったんじゃないよ。」秋の叙勲で旭日単光章を受章された阿部副会長。皇居の豊明殿でのウラ話をモノマネを交

えて楽しくうかがいました。

のんびりしたいけど仕事が目に付いてついやってしまうということで、昨年は田の草刈りに精を出され、趣味の釣りを楽しむのはまだ先のご様子。40歳で山を買って開田したそうですが、山がまだ残っていて、家族の役に立てばと昨年ユンボを購入したとのこと。35年の大事業ですね！

毎晩欠かさない晩酌が健康の秘訣。「酒は友達。コップだけは離さない。」と笑う阿部副会長。呑んでもくずれないけど、家に帰って奥さんの顔を見るとかなり弱いようでした。

(井澤 香子)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、本県水稻の作況指数が69と、平成5年以来の大冷害となりました。また、米政策改革をはじめ、WTO農業交渉やFTA交渉、さらに農業委員会制度の見直し等々、私達農業委員にとって目の離せない年でした。

今年は、農業改革を加速する年です。

「米政策改革大綱」では、市町村・JAが進めている「地域水田農業ビジョン」づくりについて多くの課題があると思われます。農業経営をどう組み立てるか、販売戦略をどうするか、担い手をどう明確化し育成するか等、稲作農家にとって今後ますます競争原理に基づく経営が求められ、生き残れるよう一層の創意工夫が必要です。

農業委員も、このビジョンの課題解決に積極的に参加し、役割を果たすべきと思います。

皆様のご指導により「農政時流」第2号を発行いたします。

今年もご意見等をお願いいたします。

編集委員（蔵王町農業委員会会長）

佐藤長成